



#020

2024 Winter

【 えっと 】

広島県



医師として広島県を

“えっと”楽しむマガジン



ETTO

Feature | 特集

広島県 × 小児医療

広島の小児医療を支える “小児科医”の魅力！



広島県地域医療支援センター(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)が発行する、医学生・研修医・若手医師に広島県の医療をPRするための広報冊子です。今号は広島県で働く小児科医に密着して、それぞれが目指す地域の小児医療を特集します。



編集制作
「民間医局」株式会社メディカル・プリンシプル社
Art Director & Photographer: 勝又シゲカズ BTTB inc.
Writer: 安藤希



広島大学大学院
医系科学研究科小児科学教授
小児血液腫瘍科長

岡田 賢 先生
Satoshi Okada

広島県出身
徳島大学卒業(1999年)

ニーズの変化に合わせて
これからの小児医療を考える

01

広島大学病院 小児科

広島県で唯一の大学病院として、「臨床、研究、教育」に取り組む広島大学病院。

中国・四国地区における小児がん拠点病院として、がん診療にも力を入れています。

全国的にも小児科医のなり手不足が叫ばれるなか、広島県では新たな取り組みで小児医療の課題を解決しようとしています。

その一つが小児医療の機能を集約させた、新病院の構想です。広島大学病院で小児科学教授を務める岡田賢先生に、

広島県の小児医療の現状や、これから求められる小児科医の在り方について話をお聞きしました。

——小児科医を目指されたきっかけを教えてください。

小児科を選んだのは、医学部6年生の時です。たとえ難病といわれるような病気でも、お子さんや親御さんは最後まで諦めずに、一生懸命治療と向き合っています。それに全力で応えようとする小児科医の姿を見て、感銘を受けました。そんなふうに見えるさんとご家族に寄り添える医師になりたいと思ったのが、小児科医を志したきっかけです。

また、研究にも興味があり、大学院で始めた免疫の研究は非常に面白いです。小児の先天性免疫異常症は、多くが遺伝子の変化によって発症します。その遺伝子を同定することで、診断ができる。研究によって診断ができるようになれば、患者さんの治療に結びつくため、やりがいもあります。

——広島大学病院の診療の特徴をお聞かせください。

当院は、中国・四国地区の小児がん拠点病院に指定されており、がん治療に強みがあります。広島県では年間40〜50人のお子





専門分野

感染・免疫学、小児内分、臨床遺伝

資格

日本小児科学会小児科専門医・指導医
日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医・指導医
日本血液学会血液専門医・指導医
日本内分、学会内分、代謝科専門医・指導医(小児科)

さんが小児がんを発症しますが、そのほとんどをここで診療しています。

全国に小児がん拠点病院は15施設ありますが、中国・四国地区では当院だけです。そのためエリア全体の診療レベルを高めていくために、月1回、16ある連携病院と一緒にWeb会議を行っています。もう10年近く続けていて、その数は100回を超えます。こうした取り組みも拠点病院としての大事な役割です。

病院としては、院内で小児がんの患者さんをしつかり診られる体制づくりをしています。子どもと遊ぶ専門スタッフであるチャイルド・ライフ・スペシャリストが2人います。臨床心理士や病棟保育士も在籍しています。医療だけではなく、あらゆる面から、がんと闘うお子さんたちをサポートしていきたいと考えています。

また、病院の近隣には、入院中のお子さんをお持ちのご家族が宿泊できるファミリーハウスもあります。小児がんのお子さんは長期の入院になりますし、特に病院内ではきょうだい児との面会ができないため、そうしたご家族へのケアも重要です。

今や、小児がんの約8割は治る時代。だからこそ私たちは病気を治すだけではなく、お子さんが学校や社会に戻るよう、小児がんを知ってもらうための活動にも力を入れています。

—— 大学病院だからこそ学べるスキルをお聞かせください。

大学病院だからこそ学べるものはいくつかあります。その代表はがん診療で、小児がんの経験を積み、日常診療で小児



がんのリスクをしつかり見極めることができるようになります。リスクが高い患者さんを見逃さないことは、将来どこで働くとしても重要なスキルです。

また、てんかんセンターでは脳神経外科と連携することで、難治性てんかんの診療を学ぶことができます。当院は小児の内視鏡検査ができる数少ない施設として、最近増えている炎症性腸疾患(IBD)の患者さんに対する治療に必要な手技を身に付けることもできます。

これは広島県に限らずですが、最近の大きな課題は発達障害などのこころの疾患です。ADHDや学習障害などの言葉が広まり、一般の方たちへの認知が広がったことで、専門的な医療を受けたいというニーズが高まっています。当院でも「子どものこころの外來」に力を入れており、外來担当の医師を一人から三人に増やしました。

教育施設として、子どものこころの問題に取り組んでいける人材の育成にも力を入れていかなければなりません。これからの

小児科医には間違いなく必要なスキルだと思います。

—— 広島県の小児医療の現状についてお聞かせください。

広島県は全国平均と比較しても、人口あたりの小児科医の数が少ないのが現状です。その対策として今、進められているのが、JR広島駅北口側に2030年に開設予定の新病院の構想です。新病院に小児科の機能を集約させることで、一人ひとりの医師にかかる負担を減らし、小児科医が働きやすい環境を作ります。症例が集まることで、研修医にとっては経験を積みやすいメリットもあります。

また、2025年からは、小児科が広島大学医学部ふるさと枠の重点診療科になるなど、県をあげて小児科医の人材育成に積極的に取り組んでいます。

—— これからの小児医療に求められることは？

一つは予防医療。例えば、肺炎球菌・インフルエンザ菌ワクチンの普及により、小児の細菌性髄膜炎は大幅に減少しました。これらの予防医療を届けていくことは小児科医として大切な使命です。

もう一つは病気の早期発見です。広島県では、全国に先駆けて先天性の病気を調べる「新生児マススクリーニング検査」を導入しています。2024年8月には、県内で初めて難病の重症複合免疫不全症(SCID)と判明した男児が、無事に移植手術を終えて退院しました。

本症は重症感染症を契機に見つかることが多い疾患でしたが、スクリーニング検査

によって早期に発見できれば、元気な状態で移植が受けられるため、生存率が高くなります。今後は、新生児マススクリーニング検査で病気を早期発見し、早期治療する流れがますます加速していくと思います。

—— 小児科医としてやりがいを感じることは？

子どもたちの成長を実感できるのが大きな喜びです。最近、医師になって1年目の時に診た小児がんの患者さんが、「先生、結婚しました」とわざわざ報告しに来てくれました。医師冥利に尽きます。

—— 最後にメッセージをお願いします。

少子化によって小児科医の仕事が減ることを心配される方もいるかもしれませんが、しかし、少子化に伴い、一人ひとりのお子さんを大切に育てようという気運も高まっています。発達障害の診療に代表されるように、社会のニーズに応じて重視される分野は変わることがあっても、小児科は社会に必要とされ続けるでしょう。子どもを安心して育てていくための土壌を作る一つの柱が小児医療です。ぜひ希望を持って小児科医を目指してほしいと思います。

HOSPITAL DATA



広島大学病院

〒734-8551 広島市南区露1-2-3
Tel: 082-257-5555 (代表)
URL: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/>





02

県立広島病院

総合周産期母子医療センターとして、

リスクが高い新生児への医療を行う県立広島病院。

連携する医療機関からの要請をできるだけ断らずに受け入れているため、

12床あるNICUは常にフル稼働しています。

特に1000g未満の超低出生体重児の治療に強みがあり、

全国平均よりも高い98%の生存率を誇ります。

県内の新生児医療の中心を担い
ハイリスク新生児の命を救う

1000g 未満の 新生児の治療

福原：福田先生は赴任して半年ですが、ここでの専門研修はどうですか？

福田：最初は1000g未満の赤ちゃんにどう触れたらよいのか分からず、小さな体にて治療することへの不安もありました。でも、上級医の先生や看護師さんに教えてもらいながら、徐々に採血や点滴などの基本的な処置ができるようになってきました。

福原：たしかにはじめのうちは怖いですが

ね。私が医師になったばかりの頃に比べると、周産期医療は大きく変わってきています。医療技術やデバイスが進化し、チーム全体での取り組みによって治療成績は向上しました。だからこそ、専門研修で初めて関わる際の戸惑いや難しさがあるかもしれませんが。

福田：広島県は、全国平均よりも周産期の死亡率が低いといわれていますよね。

福原：そうですね。県内に2つある総合周産期母子医療センターの一つとして、私たちが特に力を入れているのが低出生体重



専攻医

福田 由梨乃 先生

Yurino Fukuda

広島県出身

広島大学卒業(2021年)

副院長
新生児科主任部長

福原 里恵 先生

Rie Fukuhara

山口県出身

広島大学卒業(1988年)



「私の双子の妹と弟がこのNICUでお世話になったことがあり、新生児医療に興味を持ちました」
福田先生

児の治療です。1000g未満の超低出生体重児もここで診ることが出来ます。症例が集まることでスキルが上がります。

福田…一般的に小さく生まれるほど救命率は下がりますが、どの週数、どの体重で生まれてもほぼ同じ救命率をキープできているところが、当院の強みですよ。

福田…それから当院では、最新の人工呼吸器「NAVA」を4台導入しているのも特徴です。これは赤ちゃんの自発呼吸を生かして、肺の損傷を抑えながら呼吸管理ができる装置で、導入した時点では中四国地方でまだ2施設しかありませんでした。

福田…そうした最新の医療機器を使った新生児医療を学ぶことができるのも、ここでの研修の魅力だと思います。

予想外のトラブルにも対応

福田…最近では、新生児の時に痛みを感じた経験が、脳の発育を阻害することも分かっています。そのため当院では、いかに痛みを感じさせずにケアをするかに注力しています。

福田…新生児科で働くまでは、針を刺す時に「チクツとするけど頑張ろうね」と赤ちゃんに声掛けをすることしかできませんでしたが、今では根拠に基づいて動けるようになりました。例えば処置をする前にミルクをあげたり、正しいやり方でホールディングをしたりと、具体的な方法が分かっているのも、迷わずにできます。

福田…福田先生は新生児医療に熱心に取り組んでくれていますよ。

福田…はじめのうちは新生児医療はもっと狭い分野なのかと思っていたのですが、ここでの勤務を通してイメージが変わりました。救命もそうですし、その後の退院してからのことも考えなければならぬので、実はすごく幅広い領域を見えていますよ。

福田…そう思います。小児科には循環器や神経、内分泌…と、たくさんの分野がある中で、新生児医療に関わるためには、それら全てが必要です。

福田…今まさに研修をしながら、それを実感しています。

福田…そういえば、福田先生が来てすぐの頃、予想外の出来事がありましたよね。他の病院へ新生児を迎えに行ったら、リストクの高い赤ちゃんがもう一人生まれていて……。

福田…はい。あの時は、私と1年上の先輩だけで向かっていたので、「こんなこともあるのか!」とびっくりしました。慌てて福田先生に電話をしたんです。

福田…こちらも状況が分からないから「一体どうなってるの?」と。何とか二人の赤ちゃんを無事に搬送することができたけれど、まさかと思うような出来事でした。初回にしてはハードルが高かったですよ(笑)。

福田…本当にドキドキしました。終わってからも、どうすればよかったのかをチームのメンバーで振り返る時間もありません。含めて勉強になりました。

人生のスタートを見守る

福田…それから新生児の場合は、親御さんが赤ちゃんに代わって意思決定をしなければならぬので、親御さんとのコミュニケーションも大切です。

福田…そうですね。私はまだまだ勉強中ですが、ご家族と話す前には必ずシミュレーションをするようにしています。特に難しい疾患では、指導医の先生に「こんなふう」に説明しようと思っています」と相談することもあります。

福田…しっかりと準備をしてくれていますよね。さまざまな価値観がある中で、親御さんの意見を尊重するためには、やはり相手の立場に立つて話す姿勢が求められます。

福田…ベテランの先生たちの話し方はすごく勉強になります。間の取り方から話すトーン、テンポまで、いつも患者さんの立

場に立つて話をされていて。私もそんなふうになれるようになりたいです!

福田…学生や研修医のうちに、あえて自分とは違う価値観の人たちと交流してみるのがお勧めです。SNSでつながるだけでなく、直接、人と接した経験が医師としての財産になると思います。

福田…私の場合は、学生時代に必死で医学の勉強をしておいたことが実践で役立っています。やっておいてよかったなと。

福田…それも大事ですね。福田先生はちゃんと勉強してきたことが分かります。しっかり知識を持って臨床現場に出ると、若手の先生でも根拠を持ってディスカッションできますからね。

福田…将来は、子どもの笑顔を守り、成長を手助けできるような小児科医を目指しています。

福田…新生児科は人生のスタート地点に関わる診療科なので、その子のその先の人生や、家族形成にも関わることが出来る。すばらしい仕事ですので、興味を持ってくれる人が増えてほしいなと思います。

HOSPITAL DATA



県立広島病院

〒734-8530 広島市南区宇品神田1-5-54
Tel : 082-254-1818 (代表)
URL : www.hph.pref.hiroshima.jp

ホームページは
こちらから





24時間365日体制で
広島市の小児救急医療を支える



専攻医

七尾 梨紗子 先生

Risako Nanao

広島県出身
愛媛大学卒業(2022年)

副院長
小児科部長

岡野 里香 先生

Rika Okano

広島県出身
福岡大学卒業(1987年)

03

広島市立舟入市民病院

広島市で「小児救急といえば舟入病院」として住民たちに広く知られているのが、

広島市立舟入市民病院。小児救急拠点病院の指定を受け、

年間2,000台以上の救急搬送を受け入れています。

休日や夜間の救急診療に力を入れ始めたのは、今から50年前。

当時から続く救急医療の体制が、今に引き継がれています。



1日70人の 夜間救急診療

岡野：七尾先生はなぜ小児科医になろうと思ったのですか？

七尾：母が保育士をしていた影響が大きいです。「子どもに関わる仕事はやりがいがある」とずっと聞いていたので。岡野先生はどんなきっかけでしたか？

岡野：私は何でも診られる医者になりたいと思って、内科が小児科かなど。やっぱり子どもが好きだったので、最終的に小児科を選びました。

七尾：小児科医になって半年ですが、充実した日々を送っています。舟入病院は患者さんが多くて、「まだ半年？」というくらい症例の数も種類もたくさん診ています。

岡野：広島市民の皆さんには「子どもの救急は舟入病院」と知られているので、特に救急医療は強みですね。医師が3交代勤務で24時間365日対応していて、常勤医だけでなく市内の小児科の先生方にもサポートしていただいています。

七尾：夜間の救急外来では平均すると1日70人くらい診ていますよね。専攻医になつたばかりの頃は、できるだろうかと不安もありました。

岡野：うちは専攻医の独り立ちも早いからです。はじめの2か月は必ず常勤医がいる時間帯を選んで救急外来を担当してもらいますが、それ以降は深夜帯に一人で対応することも。体験しながら学んでいくスタイルです。

七尾：子どもによくある疾患に腸重積がありますが、もし一人で診ているときに来て



「子どもたちからもらった手紙や折り紙に、毎日パワーをもらっています」七尾先生

主治医としての責任感

しまったらどうしよう……とプレッシャーが。でも、実際に患者さんを診た時には、岡野先生に電話で相談をしながら対応できました。上級医の先生方は「いつでも電話してくれていいからね」と言ってくれますし、自分で経験しないと自信はつかないので、私にとってはありがたい環境です。

● **岡野**…救急で診ていると、「このままこの子を帰していいんだろうか」と不安になることもあると思います。昼間ならば複数の小児科医が勤務しているので、お互いに相談しながら診療することもできます。外科的な処置やICUでの管理が必要な患者さんは、より専門医療を提供する病院に救急搬送する連携も取れているので安心です。

七尾…一人で深夜帯を担当している時に、何度か救急搬送の対応をしたことがあります。広島大学病院の高度救命救急センターとは

ホットラインがつながっているので、スムーズに受けてもらうことができました。

● **岡野**…ここでできる治療なのか、すぐにICUに搬送した方がいいのか、その判断ができるようになると、どの病院に行っても活躍できるオールマイティな医師になれると思います。病棟での診療はどうですか？

七尾…主治医になってみて、研修医の時の違いを感じています。いつまで抗生剤を投与するのか、退院のタイミングはいつなのか、基本的な治療方針を自分で決めなければならぬので、最初のうちは難しかったです。

岡野…七尾先生は親御さんへの説明も落ち着いていて、丁寧に患者さんを診ているので頼もしい。私は安心して見守っていますよ。
七尾…そう言っていたけれど嬉しいですね。救急からの入院だけでなく、神経疾患や消化器疾患の専門外来からの患者さんもいるので、脳波を測ったりエコーを撮ったり、

技術的なことも学んでいます。入院中はエコーを怖がっていた子が、「痛くないんだよ」と毎回のように伝えていたら、退院してから外来に喜んで来てくれるようになって。そうした一つひとつの特技で子どもと触れ合えることも嬉しいですね。

● **岡野**…七尾先生は、広島市の特別支援学校の修学旅行にも同行しましたよね。

七尾…はい。1泊2日で障がい

広い視野で子どもを診る



初期研修医に「こういう時はどうしていますか?」と聞かれて答える七尾先生

のある子どもたちと一緒に過ごしたのですが、とてもよい経験になりました。これまで病院の中にいる子どもたちしか見えていませんでしたが、その子たちが退院してからどのような生活を送っているのか、親御さんたちはどのようなケアをしているのかが見えてきました。もっと社会的なサポートが必要ですし、私ももっと勉強したいと思いました。

● **岡野**…子どもの頃の疾患によって、成長してから医療的な介入が必要になる子どもたちがいますので、小児科医はそうした問題についても考えていかなければなりませんよ。

七尾…主治医として子どもたちを診るようになったことで、やりがいも感じています。まだまだ字が書けないのに「ありがとう」

と頑張ってお手紙をくれたり、似顔絵を描いてくれたり、子どもたちからのプレゼントは宝物ですね。
岡野…子どもたちが回復していくにつれて、親御さんたちが一緒に元気になっていくのを見るのも嬉しいですね。

七尾…これから小児科医を目指す方は、学生実習や初期研修のときに、上級医やコメディカルとの関わり方など知識以外のことを学ぶと、臨床の現場でも役立つと思います。

● **岡野**…そうですね。そして恥ずかしがらずにたくさん質問をしてほしいですね。自分から積極的に動いた方が得られるものがあるはずですから。

七尾…私も上級医の先生たちにはどんな質問をしています。いろいろな先生から教わったことを基にして診療をすれば、それが強みにもなります。

● **岡野**…小児科は子どもの成長の過程に依りて、幅広い分野を診ることができなのが魅力です。その中から、ぜひ自分のやりたいことを見つけていってください。

HOSPITAL DATA



地方独立行政法人 広島市立病院機構
広島市立舟入市民病院
〒730-0844 広島市中区舟入幸町14-11
Tel: 082-232-6195 (代表)
E-Mail: funairi-hosp@hcho.jp





04

東広島医療センター

広島中央医療圏の中核を担う東広島医療センター。

子どもの人口が多い東広島市において、唯一、小児病床がある病院として入院治療にも対応しています。

幅広い診療でスキルアップできるほか、若手の医師が積極的に診療や勉強会に携わることができる環境です。

取材中は終始、会話の絶えない和やかな雰囲気、チームワークの良さが伝わってきました。

症状から診断する力が身につく
自由な風土で自主的に学べる病院

診断力が鍛えられる臨床

上野：川上先生は初期研修も当院で受けていますよね。うちの小児科は、先生みたいに専攻医になつてからも残ってくれる人が多いんです。

川上：学生実習で来た時から

すごくアットホームな雰囲気を感じ、研修先を選ぶ決め手になりました。先生たちの距離感がとても近いですね。

岡田：どの科の先生でも相談しやすいですし、休憩時間には気軽に雑談もでき、ストレスがない環境だなと思っています。上野先生に診療のことで相談すると、何でも答えてくれます。

上野：僕からもよく相談をしますよね(笑)。

坂田：私は週1日、大学病院に通いながら当院に勤務しています。大学病院では既にある程度、方向性が決まった状態で紹介されてくることが多いですが、ここではあらゆる疾患をファーストタッチから診ることができるので勉強になっています。

上野：よくある軽症のものから、ヘリで搬送をしなければならぬような重症のものまで、種類も豊富です。より専門性が高く大きな病院のある広島市までは車で1時間程度かかるので、当院が地域の中核病院として、ここで診られる疾患なのか、より高度な医療機関に送った方が良い疾患なのかを見極める役割を担っています。

川上：common diseaseの対応はもちろ



小児科医長
岡田 泰之 先生
Yasuyuki Okada
広島県出身
徳島大学卒業(2003年)

広島大学 寄附講座助教
(広島中央地域・小児医療支援講座)
非常勤医

坂田 園子 先生
Sonoko Sakata
広島県出身
山口大学卒業(2006年)

専攻医
川上 さくら 先生
Sakura Kawakami
広島県出身
広島大学卒業(2022年)

小児科部長
上野 哲史 先生
Satoshi Ueno
広島県出身
広島大学卒業(1997年)



専攻医の「やってみていい！」を、指導医やコメディカルスタッフが温かく支えてくれる環境



んですが、私は科内で一番若手なので、珍しい症例で声をかけてもらえるのがありがたいです。1年目でありながら1型糖尿病やファブリー病、家族性地中海熱といった、国家試験対策で勉強していたような希少疾患も主治医として担当させてもらっています。

上野：若い先生たちには、珍しい疾患を含めてできるだけいろいろな疾患の経験を積んでほしい。そのために私たち上級医はサポートしています。川上先生は、院内で新生児蘇生法(NCPR)の勉強会を開いてくれています。積極性があってすばらしいと思います。

川上：ありがとうございます。勉強会では、看護師さんや研修医向けに、赤ちゃんの形や実際に使うフェイスマスクを使いながら、実技を中心に教えています。ベテランの先生も参加してフィードバックしてくださるので、自身の勉強にもなっています。
上野：そうした活動は、全体の診療のレベルアップにもつながるので、どんどんやってほしいです！

子どもの笑顔が やりがいに

上野：成人の診療科は臓器別に細かく分かれていますが、小児科は子どもの疾患のほとんどを診ることができ、一つの診療科で治療が完了できるのが魅力です。

川上：私は子どもが好きで小児科医を志しました。実際に働いてみると、毎日、本当に楽しくて、「今日はあの子が来る日だな」とか「入院中の子が元気になってきたな」とか、子どもたちの姿を見られることに喜びを感じています。

岡田：子どもたちの成長の過程を見られるのも嬉しいですよ。ここでは周産期から関わっているので、赤ちゃんの時に診ていた子が「今度、小学生なんです」と、親御さんに連れられて来るのを見ると、「あの子がこんなに大きくなったのか」と感慨深いです。

坂田：私もずっと子どもに関わる仕事がしたいと思っていました。ただ、初期研修でいろいろな診療科を回ると、どこも魅力的で迷ってしまつて(笑)。最終的には「やっぱり自分の好きなことをしたい」と、医師を目指した時からの思いを貫きました。
岡田：自分に合った診療科を選ぶことが大事ですよ。一方で、子どもが好きだからこそ、時にはつらい思いをすることもあります。

川上：そうですね。私も医師になってから新生児死亡を経験しましたが、とてもつらかったです。そうしたつらい場面もありますが、そこで親御さんが乗り越えられる



ように支えていくのも、小児科医のやりがいですね。

上野：たしかに親御さんとの関係づくりは大事です。

川上：親御さんにとって、子どもの病気はとても不安だと思います。病名を聞いただけでパニックになってしまう方もいらっしゃいます。少しずつ信頼してもらえようになり、最後はお子さんと一緒に笑顔で退院される姿を見ると、小児科医でよかったなと実感します。

学生時代に どう過ごすか

上野：ところで、皆さんは学生時代どのように過ごしていましたか？

川上：私は広島県の観光大使をしていました。学生時代に医学以外の世界に目を向けられたことは、貴重な経験になりました。

岡田：僕はけっこうのんびり過ごしていたのですが、それができるのも学生時代ならでは。学生のうちに自由な時間を楽しんでほしいです。

坂田：私はソフトテニス部に所属していて、学生時代に運動をしていたことが医師になってから役立っています。おかげでハードな当直も乗り切れます。

上野：それぞれ自分なりの過ごし方で学生



「出勤しながら、その日の外来に来る子どもたちの顔を思い浮かべるのが日課です」川上先生



独立行政法人国立病院機構
東広島医療センター
〒739-0041 東広島市西条町寺家513
Tel : 082-423-2176 (代表)
URL : <https://higashihiroshima.hosp.go.jp/>



ホームページはこちら

HOSPITAL DATA

時代を満喫していたのです。学生時代は、卒業後の進路に迷うこともあると思います。どんな小児科医を目指すとしても、若いうちに幅広い診療を経験しておく、基本的な力に身につけられるはずですよ。
川上：私はここで医師人生をスタートすることができて、本当に良かったです。学生実習も初期研修も楽しかったですが、専攻医はもっと楽しいです！

05



福山市民病院

広島県東部の拠点病院として、小児の二次救急を
24時間365日体制で引き受けている福山市民病院。

救命救急センターとの連携で、外傷や重症例にも対応しています。

小児科の専門分野の診療が充実していて、

腎臓、循環器、神経、内分泌、血液腫瘍、新生児……、と

多数の専門医が在籍しているほか、

完全シフト制の働きやすさも特徴です。

専門分野の医師たちがそろい
幅広い疾患について学べる

判断力が 鍛えられる救急

安井…福山市は人口が約46万人と多く、医療ニーズの高い地域です。しかし、近くに大病院がないため、基幹病院である当院ではできるだけ多くの患者さんを診る必要があります。

木村…地域の患者さんが集中するので、症例数が多いです。小児救急医療拠点病院として24時間365日体制で二次救急を引き受けています。

安井…それには救命救急センターが設置されているので、外傷や溺水など事故

の症例を診る機会もあります。さらに第二種感染症指定医療機関や小児科専門研修の基幹施設の指定も受けています。これらすべての機能がそろった病院は、非常に珍しいのではないのでしょうか。

木村…若手のうちにさまざまな小児疾患を診られるようになりたいと思っています。ここでの研修はとても勉強になります。

安井…木村先生は一人で夜間の救急も担当しています。



専攻医

木村 崇 先生

Takashi Kimura

広島県出身

高知大学卒業(2021年)



診療部次長
小児科統括科長

安井 雅人 先生

Masato Yasui

岡山県出身

岡山大学卒業(1985年)



「小さい頃から推理小説が好きで、熱や咳などの症状から疾患を導き出す臨床推論に面白さを感じています」木村先生



小児科では腰椎穿刺やエコー検査など、幅広い手技のスキルが求められる

木村：はい。最初は不安もありましたが、最近では自分で対応できるものなのか、早めに関心して専門医にコンサルテーションをした方がよい症例なのか、少しずつ判断できるようになってきました。

安井：着実に経験値が上がっていますね。ここに来て初めて診た症例もあるのでは？

木村：熱性けいれんはよくある疾患ですが、熱がないときにけいれんを起こしているケースや新生児のけいれんも経験しました。心臓の頻脈発作で心機能が低下してしまい、命に関わるようなケースの緊急対応をしたこともあります。

安井：救急搬送で大事なものはスピード。

木村：はい。最初は不安もありましたが、最近では自分で対応できるものなのか、早めに関心して専門医にコンサルテーションをした方がよい症例なのか、少しずつ判断できるようになってきました。

安井：着実に経験値が上がっていますね。ここに来て初めて診た症例もあるのでは？

木村：熱性けいれんはよくある疾患ですが、熱がないときにけいれんを起こしているケースや新生児のけいれんも経験しました。心臓の頻脈発作で心機能が低下してしまい、命に関わるようなケースの緊急対応をしたこともあります。

安井：救急搬送で大事なものはスピード。

小児の専門分野が充実

一人の患者さんを診ているときに、次の患者さんが搬送されてくることも日常茶飯事です。優先順位をつけながら、一度に何人もの患者さんに対応しなければなりません。

木村：一人に対応することで、徐々に自信もついてきました。それに、夜勤中は上級医の先生に電話で相談することもできますし、緊急時は救命救急センターの先生方がサポートしてくださるので、安心感があります。

安井：ここでの研修を通して、知識だけではない、実践で役立つスキルが鍛えられているはず。

安井：これまで周産期医療には手が回っていませんでしたが、将来的には広島県東部で初となる総合周産期母子医療センターを目指して、2024年4月にプレNICUを開設しました。現在は在胎34週以降の早産児を受け入れています。

子どもの成長が喜びに

木村：小児科医として新生児医療に関わることも魅力ですね。生まれた直後に泣かなかつた赤ちゃんに処置をして、無事に泣けるようになった時はとても感動しました。

安井：当院は小児科の各専門分野の治療が充実しているのも特徴です。私は腎臓を専門にしていますが、他に循環器、神経、内分泌、糖尿病、血液腫瘍、新生児、アレルギーと専門医がそろっています。小児の腎臓の専門医は福山市に一人しかいないので、当院でのみ専門治療ができます。

木村：幅広い疾患に対応しつつ、専門分野の治療についても学べるのがうれしいです。

安井：これだけ専門医が集まっているのは、当院の働きやすさに関係していると思います。というのも、完全シフト制でオンとオフの切り替えができるので、医師が長く働き続けてくれるからです。

木村：それによって専門性が維持されているんですね。たしかにシフト制は、若手にとっても働きやすいです。夜勤明けの日は午前中で仕事が終わりますし、土日も自分の時間を多く取れますね。

安井：日勤と夜勤のシフトがバラバラに組まれていると、体の調子を崩してしまうこともあるので、同じ曜日に休めるようにほぼ決まったパターンでシフトを組むなど、工夫をしています。子育て中の女性医師たちからも「とても働きやすい」と好評なんですよ。



福山市民病院

〒721-8511 福山市蔵王町5-23-1
Tel: 084-941-5151 (代表)
E-Mail: shimin-byouin@city.fukuyama.hiroshima.jp

ホームページはこちら



HOSPITAL DATA

では診断がつかないこともあります。親御さんには「まずこの疾患を疑っていて、この治療であれば〇日ほどで改善してくれるはず。改善しない場合や〇〇の症状が出てきた場合は、〇〇といった疾患を考えて、治療の変更や追加の検査をします。」と事前に説明しておくことで、家族の不安を減らせると学びました。

安井：小児科医は子どもに対してだけでなく、ご家族のことまで把握できていなければ良い医療を行うことはできませんからね。

木村：アドバイスを聞いてからは、ご家族の気持ちも考えながら診療できるようにになりました。以前、僕が担当していた患者さんが、退院してから数年経って会いに来てくれたことがあって。その時にこの仕事のやりがいを感じました。

安井：私は小児科医になって40年経ちますが、やはり子どもたちの笑顔は特別です。子どもの病気は進行も早いですが、治るのも早い。回復するにつれて、だんだんと目が輝いてきて、最後にはとびきりの笑顔になります。その変化を見ることができるのが小児科医の醍醐味だと思います。

“ふるさとドクターネット広島”は

広島の医師・研修医・医学生を応援します

広島県地域医療支援センターが皆さまをサポートします!

- ・スタッフが全国どこでも面談にお伺いします。
 - ・臨床研修病院や若手医師勉強会等の情報を随時発信しています。
- ぜひ、「ふるさとドクターネット広島」をご覧ください!

ふるさと
ドクターネット広島
とは?

登録メリット

就業の個別相談を
無料で受け
月1度のメルマガの他
広報誌ETTOを
お届け

信頼

医療法に位置付け
られた広島県地域医療
支援センターが運営する
公的なホームページ

充実

求人情報、取り組み状況、
医師インタビューなど
充実の内容で広島の
医療情報が満載!

相談コーナーも
あります!
子育ても応援して
います!

 ふるさとドクターネット広島
<https://www.dn-hiroshima.jp>

広島県地域医療支援センター

〒732-0057 広島市東区二葉の里 三丁目2-3 広島県医師会館4階
TEL : 082-569-6491 FAX : 082-569-6492 E-mail : iryou@hiroshima-hm.or.jp



「ふるさとドクターネット広島」は、広島県の地域医療を担う医師や医学生の皆様とのネットワークづくりを目的としたサイトです。

2030年度「JR広島駅北口」に開院予定!!

全国トップレベルの高度医療を提供する機能や、医療人材を育成・循環する機能を有する「高度医療・人材育成拠点」として、県立広島病院・JR広島病院・中電病院・広島がん高精度放射線治療センター(HIPRAC)が一体となり、広島駅の北口(広島市東区二葉の里)に1,000床規模の新病院を整備する予定としています。

理念

県民の皆様信頼される基幹病院として、全国トップレベルの高水準かつ安全な医療を提供するとともに、医療人材を育成し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる広島県の実現に貢献します。

病床数

1,000床

診療科数

41科

建設予定地

広島県広島市東区二葉の里3丁目

※病床数・診療科構成は今後の医療需要の変化などにより、変更する可能性があります。

©ZENRIN

広島県 健康福祉局 医療機能強化推進課

〒730-8511 広島県広島市中区基町10-52
Tel:082-513-3086
E-Mail : fuiryokinou@pref.hiroshima.lg.jp

新病院に関する情報はコチラのホームページからご覧ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/koudoiryou-jinzai/shinbyouin-gaiyou.html>

新病院に関するテーマを取り上げ、大学教授や医師等の有識者の方を講師としてお招きするセミナーを毎年開催! 見逃し配信もありますので、ご覧ください!



お問い合わせ